

施策番号	445	施策名	定住化の推進	主管課名	まちづくり課
総合計画 体系	政策名	4	快適な生活環境の里づくり	令和 2 年度課長名	小林 英将
	関係課名		くらし安全課 建設課	シート作成者	柳井 和彦

1. 施策の対象と意図の指標

① 施策の対象(誰、何が対象か)		③ 対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
ア	町民	→	ア 町民人口	人	見込値 実績値	 12,926	 12,754	12,143 12,625	11,970	11,800
イ	町外の住民	→	イ 対前年人口増減	人	見込値 実績値	 -187	 -172	-142 -129	-173	-170
ウ		→	ウ		見込値 実績値					
② 施策の意図(対象をどうしたいのか)		④ 成果指標(意図の達成度)		単位	区分	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
ア	住み続けてもらう	→	ア 住み続けたいと思う町民の割合	%	目標値 実績値 達成率	84.5 85.9 101.7%	84.5 86.4 102.2%	85.0 86.9 102.2%	86.0 101.0%	86.5 100.5%
イ	転入してもらう	→	イ 転入人口	人	目標値 実績値 達成率	460 386 83.9%	460 397 86.3%	470 314 66.8%		
ウ	転出を抑える	→	ウ 転出人口(参考)	人	目標値 実績値 達成率	400 402 99.5%	400 386 103.6%	400 365 109.6%		
エ	雇用・就職先を確保する	→	エ 法人税割納付法人数(参考)	企業	目標値 実績値 達成率	76 69 90.8%	78 70 89.7%	80 77 96.3%	80 96.3%	80 96.3%
⑤ 成果指標設定の考え方	ア)イ)定住化を促進する目標として、まずは子供から高齢者に至るまでの町民について、町外転出を抑止する視点等から、住み続けたいと思う町民の割合と転入人口を成果指標とした。 エ)就業先の確保といった視点から、町内の法人住民税を納付する企業数を指標とした。			⑥ 成果指標の把握方法と算定式等	ア)町民アンケートにより把握。(回答率48.1%) イ)ウ)住民基本台帳により把握。 エ)住民税務課の把握数値。					

2. 施策の役割分担

	① 住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	② 行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
施策成果向上に向けた住民と行政との役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと意識を高めるよう努める。 子ども達に鏡野町の自然・歴史・文化などの良さを伝えていく。 地域は、移住者・転入者を寛容に受け入れる気持ちを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 鏡野町の良さや独自性を町民や町外者にPRしていく。 移住・定住のための生活環境基盤の整備・支援に努める。

3. 評価結果

1. 施策の成果水準とその背景・要因		
2年度 の 評価結果	① 成果指標の時系列比較(成果は向上したか?低下したか?要因は?) ・鏡野町の人口は、少子高齢化の影響もあり減少し続けている。ただ、町民アンケート結果で「住み続けたいと思う」町民の割合は過去3年間の推移が85.9%、86.4%、86.9%と高い水準で、かつ上昇傾向となっている。これについては定住施策のみならず、各施策の成果が、こうした数値になって表れているものと考えられる。 ・転入、転出人口については、町内企業への就職や転勤、福祉施設などへの入所等様々な要因があるので、一概に判断は出来ないが、令和2年度において転入人口が転出人口を下回る結果になったことについては、残念な結果となった。	<input checked="" type="checkbox"/> 向上した <input type="checkbox"/> ほとんど変わらない <input type="checkbox"/> 低下した
	② 他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?) ・県内の市町村においての、令和2年1月1日と令和3年1月1日の住民基本台帳人口(日本人)を比較すると、総社市(0.31%増)、早島町(0.11%増)、勝央町(0.02%増)を除き、人口減少となっている。鏡野町においては1.01%の減少であった。 ・近隣の市町村を見ると、津山市0.88%減、真庭市1.66%減、美咲町2.31%減、久米南町2.34%減、奈義町0.49%減といった状況である。なお、県内で最も減少しているのは高梁市で2.71%減であった。	<input type="checkbox"/> 高い水準 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input type="checkbox"/> 低い水準
	③ 住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準か、低い水準か、どんな意見や要望が寄せられているか?) ・鏡野町の移住定住施策としては、移住コンシェルジュ(総合相談窓口)の設置や移住定住ツアーの実施、お試し住宅の利用促進、婚活イベントなどを実施している。これに加え、支援施策として空き家改修補助金や空き家片付け補助金、また、若者の町外転出に歯止めをかけるために、鏡野町新卒者等ふるさと就職奨励金、通学助成制度の見直し、地域づくり協議会でのアンケート調査にも取り組んでいる。 ・更なる制度拡充を求める声もあることから、住民の期待は高いものがあると考えられるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度まで年々増加していた移住相談件数が令和2年度には減少した。現状に合った移住相談受付体制を整え、更に高い水準を目指して行きたい。	<input type="checkbox"/> 高い水準 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input type="checkbox"/> 低い水準
2. 施策の成果実績に対する 2年度の取り組みや目標達成度 ■ 2年度の主な取り組みの成果(改革改善した取り組み、目標の達成度は?) ・移住定住相談受付件数について、順調に伸びてきているが、令和元年度では235件であったが、令和2年度は194件と減少した。コロナの影響で直接来町できない方等に向けオンライン移住相談を開始した。 ・また、空き家登録件数も令和2年度で新たに5件の登録があり、累計では70件となった。この内、37件の売買が成立するとともに、4件については賃貸借契約がなされている。移住ツアーについては、令和2年度までに54組、100名の方に参加していただき、その内の7組は町内に移住していただいた。令和元年度からはオーダーメイド型の移住ツアーに組み込み、令和2年度までに17組、28名の方に参加していただいた。		<input type="checkbox"/> 目標値以上 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおり <input type="checkbox"/> 目標値以下
3. 施策の今後の課題と改革改善の方向(うまくいかなかった取り組みや事務事業は?その原因は?) ・新型コロナウイルスの影響で、移住定住ツアーなどを取りやめたり、お試し住宅の利用を中止した。ただ、そうした中においても、県外から空き家などに関する問い合わせは増えている状況となっており、中には物件を代わりに見てきてほしいといった相談などもあったので、オンライン移住相談は行っているがさらにSNS等での情報発信もしていきたい。 ・住む場所と働く場所の確保が必要であるが、特に空き家については足りていない状況であることから、更なる掘り起こしと現在ある空き家の有効活用の工夫などについて、早急に着手していきたい。 ・町民がより住み続けたいと感じられるように、各種支援事業の見直しやその他の施策担当課と連携を取り、より魅力的な事業(補助)になるようにアイデアを出す必要がある。		